

令和7年度 共栄大学 卒業式 式辞

卒業生のみなさん、共栄大学ご卒業、誠におめでとうございます。共栄大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。また、本日まで皆さんを支え、励まし続けてこられたご家族やお忙しい中ご参列くださいました皆さまにも、深く敬意と感謝を表させていただきます。ありがとうございます。本日の喜びは、皆さん一人ひとりの努力の結晶であると同時に、多くの支えの賜物だと思います。

思い起こせば、2022年、皆さんが入学された年は、新型コロナウイルス感染症の影響がなお続く中、感染対策を講じながら対面授業の再開を本格化させた年でした。「ウィズ・コロナ」という言葉が社会に広がり、制限の中でいかに学びを止めないかを模索していました。指定強化部の活動、海外語学研修、そして各種イベントや課外活動も段階的に再開され、皆さんは不安と期待の入り混じる環境の中で大学生活をスタートさせたことでしょうか。思い通りにならない状況の中で、仲間と支え合い、環境に順応し、新しい形を創り出していった4年間であったと思います。前向きに考えれば、あの経験は、単なる「困難の時代」ではなく、変化に向き合う力を身につけた貴重な時間だったのではないのでしょうか。

現代社会はかつてない速度で変化しています。未来を正確に予測することは、ますます困難になっています。誰が、あの世界的な感染症の拡大を予測できたのでしょうか。

そして、いま、私たちは世界各地で続く対立と戦争に直面しています。2022年に始まったロシアによるウクライナ侵攻、2023年以降激化しているイスラエルとハマスを中心とするガザ紛争、中国と台湾をめぐる緊張、米国のベネズエラへの電撃的な軍事介入、さらに今月に起きた米国・イスラエルとイランの軍事的衝突による中東全域の緊張。人類は長い歴史の中で、幾度となく争いを繰り返してきました。なぜ人は分かり合えないのでしょうか。なぜ自らの「正しさ」に飲み込まれてしまうのでしょうか。

本日、皆さんに紹介したいのは、成人発達理論の第一人者である、ロバート・キーガン教授の考え方です。ハーバード大学教育大学院名誉教授であるキーガン先生は、人の発達を「人間が持つ意味づけの枠組みがどのように成長するか」という観点から捉えました。キーガン理論の核心は「主客の移行（サブジェクト・オブジェクトシフト）」という概念です。私たちは、自分が当然だと思っている価値観や信念に無自覚に包み込まれています。それが主観的であるサブジェクト、すなわち自分そのものと一体化している状態です。しかし、その前提を一步引いて見つめ、それをオブジェクト、すなわち客観的に眺められる対象へと移すことができたとき、人はより成熟した視点を獲得します。それは、自分が無意識に前提としているもの、絶対に正しいと信じ込んでいる価値観や世界観を、いったん自分の外に置き、客観的に見つめ直す力のことです。自分が「それに支配されている状態」から、「それを見つめることができる状態」へと移行すること。これは単なる知識の獲得ではありません。対立を超えるための内面的な成熟であり、真の意味での大人への成長です。

もし世界観や信念が絶対化されたときに対立や戦争が生まれるのだとすれば、自分の前提を客体化し、「もしかすると別の見方があるかもしれない」と立ち止まることができれば、そこに対話の可能性が生まれます。その力こそ、一人ひとりが日常の中で実践できる「小さな平和構築」ではないでしょうか。

自分と異なる意見に出会ったとき、「なぜこの人はそう考えるのだろう」と問いかけてみる。感情が揺さぶられたとき、「なぜ自分はここまで反応しているのだろう」と振り返ること。そこには他者への好奇心が必要です。そして誠実さが必要です。皆さんが本学で大切にしてきた「他者への思いやり」と「至高の誠実さ」は、まさにその力の土台です。

皆さんはこれから社会に出て、さまざまな対立や葛藤に向き合うでしょう。組織の中での意見の違い、価値観の衝突、時には理不尽と思える出来事にも直面するかもしれません。そのときこそ、自分が「正しい」と信じている前提から一歩引き、それを客観的に見つめる勇気を持ってください。サブジェクト・オブジェクトシフトを思い出してください。立ち止まり、考え、対話し、行動する。その積み重ねが、皆さん自身の人格を深め、周囲との信頼を築いていきます。それは弱さではありません。むしろ、真の強さです。

多様性とは、単に違いを並べるのではなく、違いの中で共に生きる力を育てることです。共栄大学の共栄は「ともに栄える」を意味します。そして共栄大学の使命は、「社会の変化や多様性を柔軟に受け入れ、他者への思いやりと至高の誠実さを保ち、教育、研究、地域貢献に真摯に取り組み、全ての関係者と共に栄え、成長し続ける」ことであります。皆さんはその共栄大学の中で学び、成長してきました。

結びに、皆さんに一つの願いをお伝えしたいと思います。どうか、自らの成長を止めないでください。そして、自分とは異なる他者と出会うことを恐れしないでください。違いに直面したときこそ、学びは深まり、人は成熟します。自らの前提を見つめ直し、他者に対して好奇心を持ち続けること。その積み重ねが、皆さん自身の人生を豊かにし、同時に社会をより良い方向へと導いていく力になると、私は信じています。

皆さん一人ひとりの中に、未来を創る力があります。その力を、誠実さと思いやりとともに発揮してください。皆さんの歩む道が、挑戦に満ち、学びに満ち、そして希望に満ちたものであることを心より願っています。共栄大学は、いつまでも皆さんの母校です。迷ったとき、立ち止まりたくなったときは、ぜひキャンパスを訪れてください。ここには、皆さんの原点があります。皆さんの未来に幸多きことを心より祈念し、私の式辞の結びといたします。本日はご卒業、誠におめでとうございます。

令和8年3月19日
共栄大学 学長
平林 信隆